

## 第4回検討会における主な意見等(案)

## 【委員発言要旨】

## (1) 中間まとめ「学びの変革プロジェクト」に係る発言

- 学習者主体の取組を行う際に最も重要なのが、教員の指導観とか授業観だと思う。それが主軸に見えるようなロードマップの書き方や、指導観の転換といった内容があるとよい。
- 学びの変革で一番大事と思われる、子ども一人一人の主体性が生まれる教育へ変革するという部分をロードマップに反映する方がよい。
- STEAM教育を下支えするような、STEAM教育情報リテラシー等の教育が必要。
- 学校で取り組んでいる職場体験学習などの教育的な効果や意義を押さえた上で、カリキュラムを構築するというのは、方向性として良い。
- 理科、数学の方から取り出して、総合的な学習の時間、探究の時間を確保するという点について、従来必要とされている系統的な学びの時間や内容・レベルの保障がなされる必要がある。
- プロジェクトを実際の現場に落とし込んだときに、先生方のコンセンサスが取れないことがある。特別なプロジェクトではなく、普段の授業の中でも具体的に先生方がイメージできるような型があるとよい。
- 制度があるからするというだけではなく、意識を変えていく必要がある。

## (2) 中間まとめ「学びのボーダレスプロジェクト」に係る発言

- 例えば峰山高等学校と峰山中学校、丹後緑風高校と網野中学校というふうにもデル校を作って、丹後学をベースにどういう形で中高連携できるかを検討しながら、先進的に取り組む姿勢が広がっていくと、とても面白いと思う。
- 府立学校の教員数は減少している。府や市が連携しながら、専門的な教科担当できる人材を確保いただけるような方向に進んでほしい。

## (3) 中間まとめ「地域まるごとプロジェクト」に係る発言

- 企業側と学校側が、色んな問題に対してスムーズに繋がっていくような仕組みができていくと、よりよい。そうすることで一人一人のお子さんに沿った学習ができると思うので、期待していきたい。
- 地元企業に専門的な技術、学びを提供頂くことができれば、学校の教員の負担感が増えずに生徒の学びを応援していけると感じている。
- プラットフォームはオンラインだけだと人間味がないので、事業所でつないでもらえるといいなと思う。